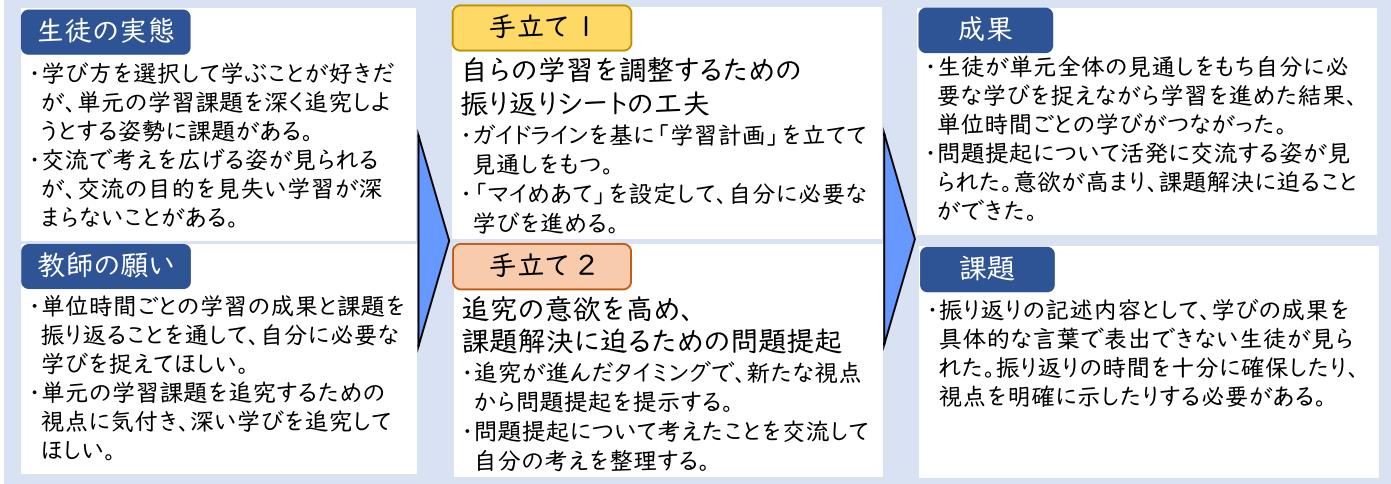


自らの学習を調整しながら課題解決に迫る生徒の育成 -振り返りシートの工夫と課題解決に迫る問題提起を通して-



特別研修員 国語 加藤 義忠(中学校教諭)



単元名:「プチ評論家になり文章を比較して読み、考えを伝え合おう」

教材名:「君は『最後の晩餐』を知っているか」／『『最後の晩餐』の新しさ』(光村図書 第2学年)

本時の取組を振り返り、学びの成果と次時に必要な学びに分けて記入する。

手立て1 自らの学習を調整するための振り返りシートの工夫

時間	学習内容 ガイドライン	学習計画	マイめあて	学びの成果	次時に必要な学び
1	課題をつかみ学習計画を立てる	計画を立てる	学習計画と前時の振り返りを基に自分に必要な学びを捉え「マイめあて」を設定する。	学習計画を立てることができた。	次回は文章を読んですぎさ伝えてい部分を見つけていきたい。
2	文章を選択して、その根拠を明らかにする。	文章を読んで特徴を捉える	内容を読んで「最後の晩餐」のすごさを伝えていたと思った言葉や説明の仕方を探す	「最後の晩餐」のすごさを伝えていると思った言葉や説明の仕方を探すことができた。もう一方の文章と比較してみようもすることができたが、まだ少し内容不足なところもあるからもう少し文章を読んで分析したいと思った。	次回は、今回の続きに取り組み、文章を分析していきたい。
3	ガイドラインを基に指定時間の計画を各自で立てる。	内容を比較したり分析したりする	内容を比べて筆者が「最後の晩餐」についてどのように考えているのか理解する。	筆者は「最後の晩餐」について「カッコいい」や「新しい」と考えていることが分かった。その理由や根拠も文章から探ることができたのでよかった。共通点や相違点については取り組んでいないところもあるから次回も分析を続けたいと思った。	次回は、共通点や相違点についてまとめてみたい。読み取りが不足しているところがあるので友だちと確認をしたい。
4		2つの文章の効果について考える	共通点と相違点をまとめて、きちんと読み取れているのかだちと確認したい。これまでまとめてきた本文中の表現の効果を考えることも挑戦してみる。	友だちと確認しながら分析したこと確認することができた。共通点や相違点をまとめて、友だちと一緒に本文中の表現の効果を考えることにも挑戦してみることができた。	次回は、自分の意見を話したり相手の意見を聞いてより深く文章について考えられるようにしたい。特に異なる立場の意見をよく聞きたい。

手立て2 追究の意欲を高め、課題解決に迫るための問題提起

相手を選んで交流

同じ立場の人と

そうだね。「カッコいい」という言葉も親しみがあって分かりやすいね。

この文章は絵画に対する筆者の考えが多かったね。

違う立場の人と

「君は『最後の晩餐』を知っているか」は読者に語りかけるような文章だったよ。

なるほど。「『最後の晩餐』の新しさ」は、事実を淡々と述べていたよ。

全体交流

交流後の意見の変容を可視化し全体で共有

S1:それぞれの文章に工夫があってどちらも作品のよさを伝えているから、選べないな。

S2:どちらもよいと思う。読み手によってどちらがよいかはかわるのかも…。

T:読み手によって違うという意見ができましたが、では、筆者は誰に向けて書いているかな?

グループ交流

この文章は、親しみやすい言葉で書いているから中学生に向けて書いているのだと思うよ。

たしかに。絵画をあまり知らない人でも分かりやすい文章だね。

もう一つの文章は、比較して分かった事実を中心に書いていて、子供向けという感じはしないね。

それぞれの文章に「作品のおもしろさを伝えたい」と「作品の情報を伝えたい」という違いがあるのかな。

【問題提起】
筆者の表現の目的や意図は何だろうか？

まとめ

意見や考えを伝えたり深めたりする

自分の意見を話したり相手の意見を聞いて自分と異なる考えを知ることによって、より深く自分の考えをより深めることができた。筆者の表現の仕方には、読者に説得力や没入感をもたせる効果があることがわかった。色んなことを整理できるようにしよう。

次回は、それぞれの文章に良さがあることが分かったことを生かして、筆者の目的や意図について自分の意見を整理できるようにしよう。

【単元の振り返り】～一部抜粋～
「君は『最後の晩餐』を知っているか」は、初めて絵を楽しむ人や作品をより深く考えたい人に、おもしろさを知ってもらうなどの目的があり、文末表現に「～だろうか」を使い、没入感を与え、絵の世界へと引き込んだり、筆者の考えを主張して、読者が絵を見てどう感じるのか考えたりできる工夫をしていた。『『最後の晩餐』の新しさ』の目的は、幅広い世代に伝えることや美術館に訪れた人など短い解説を知りたい人に伝えることであり、他の絵画と比較する構成や簡潔にまとめるという工夫をしていた。読んでもらいたい人に合わせた文章の書き方をしていることに気付くことができた。